

しょうじゅあん しょうろう  
正受庵の鐘楼



△正受庵の鐘楼

この鐘楼は、昭和の初期まで愛宕山上<sup>あたご</sup>にあって、飯山小唄に「寺は三十六、鐘なら愛宕」と唄われ、市民に親しまれてきた愛宕町の大輪院<sup>だいらんいん</sup>の鐘楼である。

屋根や基礎の痛みがひどくなったため、平成10年に大改修された。